

「主に聞き従う!!」 ～あなたは誰に聞いていますか?～

Ⅱ列6：9～23

先週はたくさんの方をお招きして礼拝や式典を行うことができました。本当に感謝な日でした。そして私たちは新しく向きを変えて出発をしていこうとのメッセージを受けて歩み始めました。そして今週も神様は私たちに必要な御言葉を備えて下さっています。今日は「主に聞き従う」ことがテーマとなっています。私たちは聞き従うことは自然にできているかと思います。しかし重要なのは誰に聞いているのかということです。この相手を間違えてしまうと私たちにとって致命的なダメージを受けたり、相手に与えてしまうことがあります。今日は預言者エリヤの後継者であるエリシャの記事を見ていきたいと思います。エリヤは生きたまま天に上げられるような優れた預言者でした。エリヤはいつも1人で敵に立ち向かっていった人物でした。その後継者であるエリシャはエリヤが天に上げられる時、その2倍の祝福を求め、得ることができました（Ⅱ列2章）この時代、王様をはじめ、多くの民は神様から離れた生活をしていました。「この国に預言者はいないのか」と言う位です。この箇所から見受けられるようにイスラエルの歴史を振り返ると主に聞き従うことの大切さがわかっているはず。イスラエルの民は神に従い出エジプトした時、紅海を前にしてエジプト軍との間で絶対絶命の時に神は紅海が分け、イスラエルの民を救われました。また水のない荒野では岩から水を湧き出させ、食べるものがなければマナが降ってきました。このように神に従うこと学びながら約束の地に入ってきました。しかし新しい地に入り、安住していく中で次第に主に聞き従うことを忘れてしまったのです。私たちは新会堂に移り、安堵していないでしょうか。どんな時でも油断をせず、祈っていかねばなりませんし、私たちは周りにいる人々に目を向けて外へ出ていかななくてはいけません。私たち神様を信じる者はイエス様の十字架の贖いによって救われました。ですから私たちが目を向けなければならないのは教会の囲いに入っていない人々なのです。そしていざ出て行こうとすると、神様はどこにいますか?と言っているようではいけません。私たちがチャンスを逃さずに行くために、出て行くには祈りが必要であり、御言葉の備えが必要なのです。（Ⅱ列4：8～）シュネムにいた女性がエリシャを招いています。この女性はエリシャが預言者であることなのか理解した上でもてなしたのではありません。ただ感じただけなのです。神を信じている人はここが違ってきます。何かよいことをしてやろうと意気込んでするのはなく、自然にすることができるようになります。神さまは私たちの心を何か目に見えないものを感じて行動するように造られているからです。それを理解し、行動していくために平安が必要なのです。「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。（ピリピ2：13）」みこころのままに働くために平安が必要になるのです。私たちに平安がなかった場合、みこころのままに働いて「こうしたほうが良い」と感じます。しかし「そんな場合じゃない」と言って蔑ろにしてしまうのです。これが私たちに与えられたチャンスを失わせてしまうことになるのです。シュネムの女性ですが、神の祝福を受け子どもが与えられます。しかし病気になりその子どもが死んでしまいました。女性はエリシャに会いにいきますが、エリシャは女性の家族の安否を尋ねています。女性は「無事です」と答えています。ここに女性の信仰を見ることができます。私たちが神の憐れみによって生かされているように、聖書の書かれている人物は神の憐れみにより赦され奇跡が行われてきました。すべては平安に保つところから始まります。しかしそれができないのは私たちに考えがないからです。エリシャの従者であるゲハジはエリシャのお礼の品をもらってはならないという言葉に聞き従わず、ナアマン将軍からお礼の品をもらってしまいました。これはなぜもらってはならないのかという事を考えもせず祈りもせず、自分の欲のためにお礼の品を受け取りました。その結果ゲハジはナアマン将軍の病を引き受けることとなり、一生病に苦しむ結果となりました。いろいろな聖書を紹介してきましたが、全体を通じて今日のテーマである「主に聞き従うのか」それとも従わないのかということをおこれらの事とおして感じてほしいのです。聞き従えれば主の祝福がたくさんありますが、ゲハジは聞き従うことができませんでした。それは今の現実の方が大切だったからです。これに心を奪われてしまうとチャンスを逃すのです。私たちの概念、考え方、価値観が神の働きを妨害となってしまいます。神は罰を与える方ではありませんが、日本人は小さい時から罰を与える神ということを常々語ってきます。ですから悪いことが起こると神罰が下ったという考えで縛られていきます。神は良い方です。決して私たちを悪くさせることはありません。悪くなるのは罪のゆえに悪魔が働くことが許されるからです。悪魔は告発者とも呼ばれています。ですから困った時の神頼みのような、問題が起こったときだけ祈り、それが過ぎると祈ることをやめてしまうのをやめなければいけません。私たちが神さまの側を歩まなければいけません。私たちに神の計画が用意されています。それを遅らせるのは私たちなのです。神は決して取るようなことはしません。ですから悪魔はそれを起こさせないようにするために、普段から祈らせないように、平安を奪うようなことをしてくるのです。（Ⅰサム15：22～23）聞き従うことが求められています。従うことが何よりも大切なことです。自分のルールで縛られていくこともよくありません。問題は必ず解決されるからです。そのためにも普段の生活が大事になってくるのです。何か特別なときだけ、必要なときだけ神を求めるようなことではいけません。私たちが神から離れるようなことをしないようにしましょう。ダビデは失敗をした後、神の前にすぐ戻っていました。シンプルに主の側を歩み、聞き従う歩みをしていきましょう。神はいつも私たちに語りかけてくれています。しかし私たちが聞く姿勢がないと聞こえないのです。今週、神様の側を歩み、神に従う生活をしていきましょう。（要約者：平澤 一浩）